

教育広報

かけはし

第38号 平成11年3月15日発行
千代田区教育委員会



めざせ マイケル・ジョーダン!!

主
な
記
事

- ☆ 中学校の情報教育
- ☆ よりよく生きる力を育てる道徳教育
- ☆ 思い出を胸に 明日に向かって
はばたけ子どもたち

2月28日、区立総合体育館にてミニバスケットボール大会が行われました。ナイスシュートの^{おうえい}応酬となった熱戦に、応援する人々の歓声が館内にこだましていました。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

中学校の情報教育

——コンピュータの活用と主体的な学習への動機づけ——

高度情報通信社会といわれる現在、コンピュータの普及とともに私たちの周囲にはいろいろな情報が飛び交っています。その情報の中から自分にとって何が必要であるかを判断して選択し、活用する能力の重要性は増す一方です。

昨年十二月に告示された新学習指導要領（平成十四年度から実施）では、中学校において「情報とコンピュータ」が必修となりました。現在本区では、全中学校にコンピュータが四十二台ずつ設置され、生徒が真剣に取り組んでいます。

そこで、中学校における情報教育の現状について、本区の情報教育（コンピュータ）推進校である麴町中学校の例をもとに紹介いたします。

情報教育の目的

情報教育の目的は、大別すれば、次の三点が挙げられます。

- ・ 主体的・能動的な学習態度の育成
- ・ コンピュータ活用の基礎的技術の習得
- ・ コンピュータの機能やしくみ、情報の活用や発信の基礎的能力の育成

コンピュータの活用

麴町中学校では、二年生は英語・理科・技術・選択技術、三年生は国語・社会・技術・選択国語・選択数学・選択社会・選択技術の授業でコンピュータが活用されています。

まず、例え、次のような活動があります。○Eメールによるウエストミンスター市立学校生徒や遠隔地の中学校生徒会との交流 ○選択社会科におけるM.E.S.E. (The Management and Economic Simulation Exercise) ソフトを使った経営経済シミュレーション演習、米国M.E.S.E.コンテストへの参加 M.E.S.E.は、校内参加者によるミーティングを重ねて経営方針を決定し、その経営方針に基づく数値（価格、生産量、販売促進量など）を主催団体のコンピュータにEメールを通じて報告するものです。この学習を通じて、企業の経営管理や需要供給など経済の構造を学んでいます。

今後の課題

こうしたコンピュータを活用した教育活動をとり入れることは、生徒の学習意欲を高め、学習内容に対する興味・関心を喚起するなど、主体的な学習へ動機づける有効な手だてとなります。

一タを扱う人間そのものに対する道徳教育が大切です。同時に、コンピュータは決して万能ではなく、コンピュータだけに頼ってはならないということを認識させることも必要です。



子ども教育委員会

開催される

東京都教育委員会の発足五十周年記念行事として、一月十六日に、「子ども教育委員会」が都庁で開催されました。

都内の小学校五年生から中学校三年生までの代表三十名が委員として任命され、本区からは、お茶の水小学校六年生の守屋 亮さんと、麴町中学校三年生の前野亮介さんの二名が出席しました。委員は「わたし・ともたち」「地域の人といっしょになつて」「私が校長生だったら」の三つのテーマに分かれて、それぞれ白熱した議論を展開しました。

よりよく生きる 道徳教育

教育問題についてさまざまな議論がされている昨今、今一度道徳教育を見つめ直すことが大切であるといえます。

昨年の六月に公表された中央教育審議会の答申では、「新しい時代を拓く心を育てるために」とあり、道徳教育は豊かな人間性の育成が目的であり、「心の教育」の実践のための手段であるとされています。

そこで、区教育委員会の研究協力校である九段小学校で、どのような道徳教育が行われているのかを紹介いたします。

昨年の十二月四日、九段小学校の一年生から六年生までの全学級で、道徳の公開授業が行われました。例えば、六年生の授業では、ユニセフ（国連児童基金）の活動を題材として取り上げ、子どもたちは助け合いの精神を学びました。

道徳教育の目標

本校では「よりよく生きる力を育てる」ことを主題とし、子どもたちの発達段階に応じて、次のように目標を掲げ、実践しています。◎より重点的な目標

- ◎ 素直にのびのびと生活する。
- ◎ 仲良く助け合う。
- ◎ 美しいものを美しく感じる。

じる心をもつ。
○ みんなが使うものを大切ににし、約束やきまりを守る。

- ◎ 自分を知る。
- ◎ 他人を知る。
- ◎ 自分自身を高める。
- ◎ 他人や周囲のものに共感する。

最後までやり通す。
これらを含む総合的な力がよりよく生きる力となる。

- ◎ より高い目標を立て、くじけないで努力する。
- ◎ 互いに信頼し合い、男女仲良く協力し助け合う。
- ◎ 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
- ◎ 働くことや、社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つよう努める。

総合的な活動

道徳教育の具体的な実践の場として、総合的な活動（主として「〇〇を育てる活動」）があります。
・ 「思いやりの心」を育てる活動（異学年編成による班活動等）
・ 「感謝の心」を育てる活動（六年生

を送る会等

- ・ 「生命を尊重する心」を育てる活動（飼育委員会の活動等）
- ・ 「健やかな精神と体を育てる」活動（運動朝会等）
- ・ 「人や社会のために尽くす心を育てる」活動（地域清掃等）
- ・ 「友情」をはぐくむ活動（群馬県嬬恋村の小学校との交流等）
- ・ 「協力・助け合いの心」を育てる活動（学芸会等）
- ・ 「美しいものに感動する心」を育てる活動（音楽朝会等）
- ・ 「外国の人々や文化に親しむ心」を育てる活動（国際交流会等） など

道徳教育は、道徳の授業のみならず、以上のような教育活動や年間行事を通じて推進されています。

こうした活動により、児童が安心して心を開き、語り合う場面が多くなりました。また、道徳に対する意識の向上がみられるようになりました。

さらに、家庭・地域との連携という側面から、道徳教育を（学校だけでなく）家庭や地域社会にも担い手になっていただくこと、地域懇談会を実施しています。

今年度は、七月と十一月の二回、町会長をはじめ地域の方々にお集まりいただき、活発な意見交換をしていただきました。今後に向けて、各活動の位置づけをさらに明確にし、さらに創意工夫を図った道徳教育を推進していきたいと考えています。

春休みにおける生活指導について

子どもたちにとって、春休みは一年間のしめくくりの時期であると同時に、新たな生活への出発の時期です。

この機会に、子どもたち一人一人が、これまでの生活をじっくりと見つめ直し、学年初めに立てた目標にどれだけ到達したか、どのような点が足りなかったかを考えてみることで大切であると思えます。そして、これから始まる新しい学校生活や家庭生活、社会生活に期待と意欲を持ち、自らの目標と計画を自覚しながら主体的に生活し、豊かな人間関係を培えるように、学校と家庭と地域社会がともに暖かく見守り、導いていきたいものです。

また、日頃から子どもたちの変化や環境に目を配り、発達段階に応じて、繰り返し具体的に指導していくことが重要です。

区立幼稚園、小・中学校、教育委員会では、豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもたちの育成のため、より一層の生活指導の充実を図ってまいりますので、家庭や地域におかれましても、ご理解とご協力、そして実践をお願いします。



おおきくなったら……

あかさか さとみ
わたし、おおきくなったらバレーナになりたいの。
おどっているとき、とってもきれいだし、みんなでおどるとスゴクたのしいから、みじかいピンクのドレスがいいな！いちばんにみせたひとはおかあさん、それにおおせいのひともみせたいな。
(富士見幼稚園)

ようちえんのおもいで

おかだ りゅうのすけ
ぼくが、ようちえんでたのしかったおもいででは、みんなでちからをあわせてきょうそうしたりして。いっぱい、いっぱい、ドキドキしてバトンをもらったり、おおごえをだしてともだちをおうえんしたり、とてもたのしかった。
おおきくなったら、サッカーのせんしゅか、だいすきなえをかいて、えかきさんになりたい。
(千代田幼稚園)

もうすぐいちねんせい！

くぼ たくや
しょうがつ(正月)にいったら、ドームのおくじょうでたくさんのもだちといっしょにサッカーがしてみたい。へんきょうより、あそびのほうかやってみたことがあるんだ。ぼくね、しょうがつこのパソコンであそんだら、たのしかったから、おおきくなったらコンピュータでえをかくことがしたいんだ。
(昌平幼稚園)

いちりんしゃにのりたい！

はりや ひろし
ぼくがようちえんでたのしかったのは、ともだちといっしょにごままわしやじてんしゃのりをしたことです。いっしょうけんめいがんばってれんしゅうしたから、こまやほじよなしじてんしゃもできるよになりました。じてんしゃではじっているとき、かぜがビュービューふいてきもちがいいです。
しょうがつにはいったら、がんばっていちりんしゃにのれるよになりたいです。
(和泉幼稚園)

友達

稲毛 未希
私が通うお茶の水小学校では、マーチングバンドに六年生全員が参加します。五年生のとき、「ミツキーマウスマーチ」がとても難しく、六年生が卒業した後も一学年命練習したのになかなか吹けませんでした。私と同じアルトサクスの友達を集まって分らないところを教え合い練習して、うまく吹けるようになったとき私はとてもうれしかったです。
このように友達によっても私は支えられてきました。

この六年間で人間関係を大切にしなければならぬことを学びました。
これからも友達をたくさん作ることで、今までの経験を生かし、みんなを支え合っているように思います。
(お茶の水小)

い出を胸に 日に向かって たけ子どもたち

すぐ一年生になる園児と する児童・生徒たちの決 満ちた声を紹介します。

思 明 は ば

もう 卒業 意に

卒業をひかえて

荒井 秀太
中学校生活における一番の思い出は生徒会活動です。行事の企画や運営、ボランティア活動やほかの中学校との交流などを行いましたが、その中でも「日英比較」という冊子を作成したことが心に残っています。イギリス、東京、北海道の中学生生活を比較してまとめたものです。学校生活においていろいろな経験ができたことが今充実感として残っています。

これからの高校生活においても勉強だけではなくいろいろなことに取り組み、社会にも目を向けながら、一歩一歩進んでいきたいと思っています。そしてたくさん経験させてくれた麹町中を誇りに思い、心の中に残しつつけていきたいと思っています。
(麹町中)

忘れられない思い出

石澤 由佳

私の一番の思い出は部活動である。私はバレーボール部に入った。たった八人しかいない部だったけれど、みんな仲良く励まし合った。初めは相手へのパスもうまくできなかったが、徐々に技術も上達していった。
練習していくにつれて色々な技が出来るようになる喜びで、部活の楽しさを知った。部活がない日でも、顧問の先生に

卒業する今

鎌田 光蔵
ぼくたち六年生は、この春いよいよ小学校を卒業します。ふり返ると、一年生のころはまだ何も分からず、上級生にたよってはかり卒業するにまで至りました。六年の間にはいろいろな場所へ移動教室へ行ったり、多くの友達をつくったり、毎日勉強をしたりする中で、思い出もたくさんつくりました。今それらを集結させる「卒業」という二文字がぼくたちの目の前にせまれます。

大人の世界へ一歩近づくとへの自覚を持ち、自分の将来の目的や夢を達成する努力をこれから少しずつしていきたいと思っています。
(九段小)

中学生になるにあたって

坪井 遙

長いような短いような八年間も、もうすぐ終わります。実感がわかないまま、卒業の準備に振り回される毎日です。
そんな僕が、中学に入るにあたって目標にしているのは、一つのこと、熱中することです。今までは、受験勉強などで大変でしたが、そのかいがあって中高一

これからの自分

蛸谷 知佳

「今日、部活できませんか」と頼むほど、みんな夢中になっていた。
部活に入ったことで、技術だけでなく、相手のことを心から思う「思いやり」の気持ちも学ぶことができた。
私は、この大切な思い出と、一橋中学校で学んだことを生かして、高校でも頑張っていきたいと思う。
(一橋中)

私の小さい頃からの夢は医者になることです。なぜなら人の命を助けるということに憧れを感じているからです。医者の中でも私は小児外科医になり小さな子供達を助けたいと思っています。
更にもっと大きな夢を持っています。ボランティアのような形で外国の無医村に行き病気の人を助けたいということですが、それはもちろん医者としての技術に優れていないといけません。他の人には頼ることができないからです。

だから私は高校での勉強を真剣にとりくみたいと思っています。そして、大学に進み、この夢に向かって精一杯努力し、医者としての技術だけでなく精神的にも優れた人間になりたいと思っています。
(九段中)

卒業後の抱負

金子 知代

練成中学校に入学してから、あつという間の三年間が過ぎ、卒業がやって来た。

買校に入ることができました。だから、スポーツでも芸術でもなんでもいので、熱中してみたいです。中学、高校を経て、もう一度自分を見つめ直してみたいときに、一回りも二回りも成長したと実感することができるようになり、そして、「ああ、あそこでもういっしょに生活していることのないように、生活していこうと思います。」
(番町小)

小学校生活の思い出を……

中村 麗亜

私の将来の夢は小説家です。文章を書くのも、読むのも両方大好きだからです。中学校に通う様になったら、今の何倍も色々な文章を書いていきたいと思っています。
何を書くか考えた末、手始めに小学校生活の思い出を書くことに決めました。それならいっしょに書いても余る程書くことがあると思っただけです。

今考えてみれば、本当にこの六年間は不思議な程早く過ぎて行きました。中でも一番に残ったのは、孀恋自然体験教室です。けれども一番楽しい思い出は、ケンカをしたり、ふざけたり、そんな普段の小学校生活です。どれほど時間がかるかわかりませんが、書こうと思います。
(麹町小)

今まで、色々なことを学んできたが、卒業後の抱負は「成長」。
それは、生きていけば常に在ること。けれど、心は何かがしたり考えたりしなくては育つことは無い。これから、高校へ進学して、自主性を持って積極的に活動し、成長していきたい。また、社会に出ても、その気持ちは変わらないと思う。考え方や、環境が全く変わってしまったとしても、それに順応することは大切で、必要なものに、毎日を通していこうと思っています。
(練成中)

宝物!!

高田 英明

青空に電かけあがる雲光り
まつ毛まっさい合格の朝
一月二十三日、僕はめでたく志望校に合格した。しかし、この勝利は、僕ひとりの力で勝ち取ったものではない。母校今川中学校の諸先生方や友人達の応援あって、初めて実現した勝利なのだ。
三年間の学校生活の中で、僕が得た最大の収穫は「信頼」。今中では、先生も生徒も、ともにいつでも手をひける距離にいた。お互い、ありのままの自分をさらけ出し、お互いの人格を認め合って暮らしていた。人間は「信頼」し合うことによって、さらに成長し、強く、優しく、たくましくなっていくものだ。
今の日本の社会では見つけにくくなってきた宝物を僕は今中で発見した。
(今川中)

第七回全国小学生作文コンクール「わたしたちのまちのおまわりさん」(読売新聞社、全国防犯協会連合会、全国少年輔導員協会主催)の低学年の部で、千代田小学校三年生の齊藤 舞さん(写真)が見事、内閣総理大臣賞を受賞しました。
なお、この作文は、二月十九日付読売新聞朝刊に掲載されました。

おまわりさんときくと、いつも交番にいるえらい人、悪いことをした人をつかまえる人というかんじがしました。私たちが、おまわりさんとお話することはほとんどなく、お金をとどけた時とか、道をきくときくらいしか交番にも行くことはありません。しかし、おまわりさんから手紙をもらったことがあります。
それは、二年前のクリスマスの二、三日くらい前の日のことです。毎日夜になると出まわりにおいてある、クリスマスツリーの電氣をつけていました。ツリーの電氣は、ついたりきえたりして、赤、黄色、白ととてもあたたかい色で光っていました。そんなある日、朝新聞を取りにくくと手紙が入っていました。
それにはこう書いてありました。
「齊藤さんのまどにうつし出されるツリーの光と、サンタクロース、トナカイがパトロールを勇氣づけてくれました。ふきんにいじょうは見られません。よいお年を……火の元には氣をつけて下さい」
これを読んだ時とってもうれしか

おめでとう!! 内閣総理大臣賞

『おまわりさんからの手紙』 千代田小3年 齊藤 舞さん

ったです。おまわりさんも、一人で夜のみまわりは、さみしいでしょう。ツリーのあたたかい光が勇氣づけてあげられてよかったとわたしは思いました。それに、おまわりさんが夜も家のまわりを見守ってくれていることがわかり、とっても安心しました。そして、お父さんも、お母さんも、夜のみまわりをしていてくれることにとてもおどろいていました。そして、「いそがしいのに、手紙をくれるなんて、やさしいおまわりさんね」とお母さんがいっていました。お母さんと手紙をもらったお礼におかしをもつてあいに行こうと言っていたのに行けませんでした。でも作文を書いているうちにどうしてもあいに行きたくなりました。
この作文とおかしをもつて、こんど、あいに行きたいと思っています。この手紙はいまでも家のかべにはってあります。私の家の宝物です。これからもこの手紙をだいじにしたいです。



社会教育会館と総合体育館の

開館日が増えます

四月から、社会教育会館(九段・内神田とも)が祝日も開館するようになります。また、総合体育館は、月曜日(第三月曜日を除く)、第二金曜日も開館となります。より多くのご利用をお待ちしています。

変更後の休館日

第三月曜日(ただし、祝日に当たる場合は開館し、翌日が休館日となります)
年末年始
その他臨時に休館する場合があります

社会教育会館が有料になります

四月一日から、社会教育会館(九段・内神田とも)を利用する場合、有料となります。

なお、区民の団体や高齢者の団体等については、利用料の減額や免除の制度があります。

利用料金など、詳しくは左記までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ

社会教育会館については

生涯学習振興課

0323234-2841

総合体育館については

スポーツ振興課

0323256-8444

子ども体験教室

(ダイナミックチャレンジ)

今回で十四回目を迎えたダイナミックチャレンジ。これは、区役所と区立花小金井学園(約25キロ)をシュニアコース(小学生)は片道、ジュニアリーダーコース(中学生)は往復歩き通すものです。二月十三日夕方四時半に区役所を出発した中学生十五名は、深夜十一時半に花小金井学園に到着しました。

ここで小学生二十九名が合流し、十四日の夜中十二時過ぎに同学園を出発し、朝八時過ぎ、全員無事に区役所に到着しました。

ゴールインしたときは、自力で踏破した充実感、満足感でいっぱいでした。



生活用具のうつりかわり — 眼鏡 —

眼前に装用するレンズのことを眼鏡(めがね・がんきょう)といいます。近視・遠視・乱視などの視力の異常を補正する目的で使用する、いわゆる眼鏡(矯正眼鏡)のほか、紫外線を防ぐ目的のサングラス、風よけのゴーグル、目にこみなどが入らないようにするためのもの、それらを兼用したりする保護眼鏡などもあります。また肉眼では見えない遠くのものを見る望遠鏡(遠眼鏡)や微小なものを拡大してみる拡大鏡(虫眼鏡)なども眼鏡に含まれています。地方によっては、海女が潜水して魚介類や藻の採取に使用する道具のことも眼鏡といっています。

日本に最初にもたらされた眼鏡は、天文二〇年(一五五一年)に豊後国(大分県)を訪れた宣教師フランシスコ・ザビエル(スペイン人)が、大内義隆に望遠鏡などとともに献上したものであります。

日本で作られるようになったのは、江戸時代の元和年間(一六一五〜二四年)に長崎の商人浜田弥兵衛がシヤワ(インドネシア共和国)で製法を習い、帰国して生島藤七に教えてからとする説が一般的で、最初に長崎に眼鏡師が誕生し、その後京都・



幼稚園児・保育園児が体験入学(昌平小)



早春の北の丸公園で持久走大会(番町小)

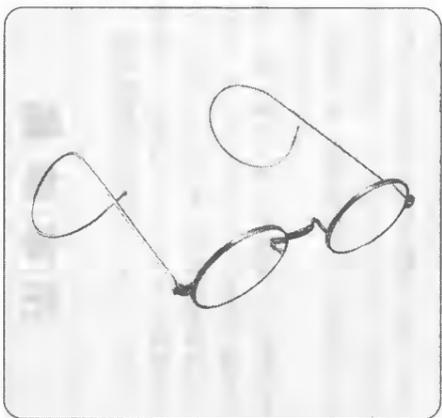
園行事・学校行事



みんなで協力し合った奉仕活動(お茶の水小)



4年生への進級が楽しみなクラブ発表会(麴町小)



随想

きょうい

PTAの役員として学校へ足を運ぶようになって早二年が過ぎようとしています。これまでは、我が子を一人前に育てることが私にとっての「教育」の全てでしたが、この間、様々な教育関係者、同じ子供を持つ多くの保護者の方々と話をさせていただく中で「教育」という事の幅の広さ、奥の深さ、ご苦労を心より感じております。そこで教育について、今思う事を述べてみたいと思います。

私は、昭和二十七年に千代田区で生まれ、今もそのまま千代田区に住んでいます。区立の幼、小、中学校に通い、その後私立校へ進みましたが、当時の千代田区の学校は生徒数も大変多い中、学力レベル、学校生活レベル等非常に高かった事を覚えております。そして、最も良かった事は、多くの友人、先生方と共に学校生活を送った事で現在なによりの財産となつています。今考えると、学校は勉強をする所でもあります。人間関係、ひいては社会性の基本を身につけ、養って行く所だと思えます。その意味でも、私が区立の学校で過ごした事を大変誇りに思っており、我が子も区立の学校に通っています。それが将来千代田区への帰属意識の源になるのではないのでしょうか。

最近では、区立小学校から私立中学校へ進学する生徒が多いようですが、私学のあり方は別として、公立学校のこれか

らのあり方を考えなくてはならない時期にきていると思います。公立という事で制約が多いでしょうが、子供、保護者、そして社会のニーズを敏感に感じ変革をしていかないと、少子化が進む中、「公立学校」の存在意義そのものが無くなるのでは限りません。このことは、都心の多くの区が抱えている問題ですので、



千代田の「教育」頑張れ

飯島 敏一

千代田区の英知を集めて千代田区から始めていただきたいと思います。

ところで、区立中学校PTA協議会の会長として様々な教育関係の会合に出席し、そこで、千代田区の「教育」に関わることが大変多くおられる事を感じました。学校の先生方は勿論ですが、教育委員会、区行政、警察、児童相談所、区民

生・児童委員、青少年委員等々。この多くの方々の、気持ち、努力に支えられて、子供達が無事に、将来社会に貢献できる大人になっていくと思えます。

しかし、特別な事は別として、家庭の他には、学校の守備範囲が最も広いわけだ先生の努力にも関わらず生徒一人一人の心の中で把握して、その子の活動、更に将来まで考えようと全体としては結局中途半端になってしまうような気がしません。そして、最後には、受験に集約されていくのですが、それまで、日々培ったものを机の上だけに終わらせるのはつまらない限りです。例えば、コース別の学習などを取り入れながら、子供の夢、個性を引き出し次の段階へ「やる気」をもって進める様になれば良いと思います。

とにかく、今街の中では、善い事はばかりではありません。子供達が、家庭と学校を行き来している時が、人間として大事な事、将来社会人として大事な事を教える唯一の機会だと考え、更に、人間として生涯楽しく生きていく手段を得る最大の機会であると考えます。

「学校のあり方」の重要性が更に増していくと思えます。

いいじま としかず
区立練成中学校PTA会長
区立中学校PTA協議会会長

編集後記

あの感動的な長野オリンピックから一年余り、今度はオーストリアで開催されたノルディックスキースキー世界選手権のジャンプ・ノーマルヒルで、日本の三選手が金・銀・銅のメダルを獲得し、表彰台を独占しました。

今号では、幼稚園や小・中学校から今まさに巣立っていかうとする十三名の子どもたちの夢や抱負を紹介しましたが、これから新たな生活を迎えるようにするすべての子どもたちが、この「三人のジャンプ」に負けなくらい、大きくはばたいていってほしいと願っています。

さて、教育分野のみならず、日常生活において、コンピュータの果たす役割は今後さらに増大していくことでしょう。コンピュータを上手に、的確に活用することが、コンピュータのもつ利点を最大限に生かすことになると思います。

間もなく桜が開花する頃となり、今年度も残りわずかとなりました。健康に留意して、立派な締めくくりとしたいと思います。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第二十八号
平成11年3月15日発行
編集発行 / 千代田区教育委員会
102 8688 千代田区九段南1-6-11
☎(3264)0151 内3114

きょうい

随想